令和5年12月26日開催定例美祢市教育委員会会議録

開催日時　令和５年１２月２６日（火）午後１時３０分から午後３時４０分
開催会場　美祢市役所３階「３０１会議室」

	南　順子	教育長	
出席委員	金子　明美	教育長職務代理者	
	山本　亜由美	委員	
	松本　孝志	委員	３人
欠席委員	山田　裕治	委員	１人

出席教育委員会事務局職員	千々松雅幸	事務局長	
	宇野　勇気	〃	教育創生監
	岡﨑　輝義	〃	教育総務課長
	中島　幹晃	〃	学校教育課長
	野村　一守	〃	生涯学習ｽﾎﾟｰﾂ推進課長
	神田　高宏	〃	文化財保護課文化財保護課長
	久保　仁	〃	総括コーディネーター
	倉増　裕	〃	教育総務課総務班長
			８人

（午後1時30分）

1　開会

事務局長　千々松　雅幸

それでは皆さんこんにちは。

定刻になりましたので、ただいまから令和５年 12 月の定例教育委員会会議を開催をいたします。

これよりの進行は、教育長よろしくお願いいたします。

教育長挨拶

教育長　南　順子

改めまして、皆さんこんにちは。

今年も早いもので、残りあと６日となりました。

本日は年末の大変お忙しい時、またお寒い中、令和５年最後の 12 月定例教育委員会会議に御出席をいただき誠にありがとうございます。

今年一年教育委員の皆様方には、教育についての重要な事項や基本方針等の審議・決定等につきまして、貴重な御意見・御提案等を賜り、心から感謝申し上げます。

大変お世話になりました。

さて、今年は、新庁舎完成という歴史的な事業がございましたが、6月末の記録的な豪雨により甚大な災害が発生し、特に学校関係では麦川小学校や於福小学校は大きな被害を受けました。

また、断水による給食中止等もあり、復旧や再開まで児童の皆さんや先生方、保護者・地域の皆様には大変な御心痛や御不自由をおかけしてしまいましたことを申し訳なく思っております。

美祢市教育委員会のこの一年は、激動あるいは変革の年で、通常の業務に加え、それぞれの課で、非常に重要な案件・事業が多くありました。

施設一体型、美祢市立小中一貫教育校美東小中学校の設立に向けての学校運営協議会との協議、保護者・地域説明会の開催、そして、美東地域未来を拓く学校づくり協議会の設立、魅力ある学校づくり検討委員会の設置、また、令和6年9月供用開始の給食センターの整備や準備、部活動の地域移行に向けての指導者・保護者等関係機関との度重なる協議や説明会の開催、自由進度学習、ｍｉｎｅｔｏ教育改革プロジェクト、図書館整備事業、Mチャレの開催、特別天然記念物秋芳洞の再生事業、秋吉台科学博物館基本構想、ジオパーク活動の推進等々、本当に多くの重要な事業をそれぞれの課で協力をしながら、市民の皆様や関係機関との連携、信頼関係を大切にし、着実に一歩一歩、丁寧に心を込めて、全力で取り組んでくれました。感謝・感謝でございます。

おかげをもちまして、後ほど、担当の方から報告がございますが、日本ジオパークとして再認定されるという、うれしいニュースもございました。

多くの事業が、魅力と活力のある地域づくりに向けて、子ども達や市民の皆様の幸せにつながるよう、また、来年も心新たに、覚悟をもって取り組んでまいりたいと思います。

どうぞ、今後とも教育委員の皆様方からの御指導・御助言をよろしくお願い申し上げます。

それでは、これからは着座にて進行させていただきます。

2 署名委員

教育長　南　順子

はじめに署名委員の指名をさせていただきます。

本会議につきましては、松本委員と山本委員にお願いいたします。

＜両名了承＞

3 前回会議録の承認

教育長 南 順子

前回会議録の承認につきましては、金子委員と山本委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

＜両名了承＞

教育長 南 順子

はい、ありがとうございました御承認いただきました。

4 教育長報告

(1)行事関係

教育長 南 順子

次に、行事関係について主なもののみ報告いたします。

12月３日、第16回美祢市駅伝競走大会が開催され、45チームが参加しました。24日に京都市で開催された全国高校駅伝大会に出場し、20位だった西京高校の女子チームも参加し、大会を盛り上げてくれました。

３年生のキャプテン佐内さんは、美東中学校の出身で、美祢市駅伝ではアンカーを務めましたが、流れるような美しい走りを目の前で見ることができ、感動して涙が出ました。

私事で恐縮ですが、佐内さんの大田小低学年のころを知っているだけに、立派に成長した姿を見ることができて、本当に感無量でした。

12月８日、美祢青嶺高等学校で、令和５年度第４回の美祢市中高連携教育推進会議が行われました。

この会議には、美祢青嶺高校と成進高校の校長先生、宇部総合支援学校美祢分教室の校長先生と教頭先生、市内５校の中学校の校長先生方が一同に会して、美祢市内の中学校と高等学校の連携を進めることにより、生徒の学びを一層しっかりつなぐという目的で開催されています。

特に、この度は、キャリア教育の充実に向けて、市内の中学２年生が高校生活について実際の場面で具体的に学習をする「キャリア学習会」の持ち方について、将来への目標意識を高め、より良い進路選択につながるためにはどうすればよいか議論が交わされました。

この取組が中学校・高等学校の双方にとってプラスになるよう、市教委としてもよりよい形でかかわっていけたらと考えています。

12月11日、ＪＯＣカップ第37回全国都道府県対抗中学校バレーボール大会に

山口県代表として出場する大嶺中学校3年生の山田利空さんと大田流可さんの激励会がありました。

二人は、8月に山口市で開催された県選抜最終選考会で代表に選ばれました。

10月、11月、12月の土日は、ほとんど他県での遠征試合に出場し、休みなしの状況だったそうです。

ぜひ、12月25日から28日までアリーナ大阪で開催されている全国大会で実力を発揮し、悔いのない試合ができるよう頑張ってほしいと願っています。

以上が行事関係についての報告です。

何か御質問等がありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

はい、それではないようでしたらその他に移らさせていただきます。

(2)その他

教育長　南　順子

大変遅くなりましたが令和５年度中国地区都市教育長会定例総会並びに研究協議会の報告をさせていただきます。

お手元の資料、Ａ３の接続カリキュラムというこの資料とそれから、ホッチキスで止めてありますＡ４の資料、令和５年度中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会復伝の資料を御覧になっていただけたらと思います。

初めにＡ４の資料のほうから説明をさせていただきます。

これは、10月19日岡山県で開催され、当日は総会、行政説明そして研究発表が、学校教育と社会教育の２点についてございました。

初めに学校教育につきましては、米子市の学校教育、全てのこどもを最大限成長させる教育の実現に向けてということで、米子市教育委員会教育長、浦林様の発表がございました。

主にア、イ、ウとか四角をつけておりますけども、美祢市でもぜひ取上げたいと思いますこの３点について復伝をさせていただけたらと思います。

まず、子ども総本部の設置ということで、これは令和３年11月に設置をされたようです。

教育部門と福祉保健部門を一体化した新たな組織として、米子市全体でこどもの成長を支え、切れ目ない支援を充実させるということで、市長部局と教育委員会の緊密な連携により、こども全体への政策や支援を一体的に推進できる体制が出来、学校と関係機関が連携しやすくなり、保育と教育のさらなる充実を図るということで設置をされております。

次にイの不登校対策ということでこれは、プラットフォーム米子市教育センターでございますけれども、プラットフォームで書いておりますように何かの困難さによって学校に行きづらい児童生徒に対して、学校復帰や進路決定、社会的自立に向けた学びや成長の機会を保障するということと、学校家庭地域が一体となってつくるこどもたちの新しい場所ということで設置をされたよう

です。
そこに施設の正面からの写真と、中の部屋、左上が応接セットですね、その左下が卓球台、この次の右上も卓球台数台が設置された非常に大きなスペースです。
そして、あとは学習机やテーブル等が設置されていて大変居心地のよい、ゆったりとした空間で、心安らぐ居場所ではないかなという感じを受けました。
この実績を御覧になっていただけたらと思いますが、令和４年度の利用児童生徒数が37名で小学生が20名、中学生が17名、そして、中学校３年生の進学率が100％、学校復帰児童生徒が17名で、４年度内の復帰が６名ほどいたそうです。
非常に成果が上がってる取組で、こどもの居場所として、どういう空間が必要かなということについては、美祢市でも考えていけたらと思います。
このほか不登校対策として、校内サポート教室の増設ということで、小学校に１校、中学校11校のうちの８校、合計９教室が設置されております。
それと、スクールソーシャルワーカーの増員で、特に小学校１年生のアドバイザーの配置ということで、令和３年が３名だったのが、令和５年は10名、それから民間のフリースクールの利用料の一部補助も市が担っているようです。
ＩＣＴの活用ということでｅラーニング教材を用いた家庭学習、在籍の学級とリモートの接続ができる、そういうふうなシステムをつくっているということと、自宅学習支援事業もこれは県の配置ということですが、行っていらっしゃるようでございます。
ウが切れ目ない支援体制の構築で、先ほど申しましたように、スクールソーシャルワーカーの増員で、特に１年生アドバイザー、園児の見守りということで、どこかにつながりチャレンジしてほしいという思いを持って、このような設置がされております。
接続カリキュラムの作成ということでＡ３のこの資料を御覧になっていただけたらと思います。
幼保小の連携に重点的に取り組んでおられて、育ちと学びをつなぐということで、米子市の目指すこどもの姿が、小学校１年生の１学期の終わりまでに、そこに４点ほど書いてありますように、友達や先生に親しみを持って接し、一緒に生活や学習を楽しむ子、やりたいという気持ちを持って取り組む子、身近な人との交流を通して、学校や地域に親しむ子、楽しく体を動かしたり健康で安全な生活をしたりする子を、先ほど申しましたように、目指すこどもの姿として１年生の１学期の終わりまでに、こういうふうにしたいということで、そのために接続カリキュラムということで、アプローチカリキュラム、これは幼保小ですけども小学校生活や学習につながることを大切にしたカリキュラムと、スタートカリキュラム、これは、こどもたちの育ちと学びをしっかりと小学校の生活に生かすということを大切にした、そういうカリキュラムが設置されております。

各小学校区でこういうカリキュラムを編成することで、施設類型を問わず小学校教育との円滑な接続につながるということで、効果が３点ほど書いてあります。

それぞれの発達段階を踏まえた適切な保育教育の充実ということと、学びの視点を明確にした保育や教育の展開がされているということ、幼児期に培った力を生かした、小学校の授業づくりがされているということで大変効果があるということでございました。

右でございますが、実は交流計画を作成し、時期や狙いを明確にした交流を進めていこうということで、園児と小学生の交流、これは大体美祢市でも行っておりますが、ただ直接の交流だけでなく手紙やビデオレター、ＩＣＴを活用した、そういった交流も進めている校区もあるようでございます。

それから、小学校区の園児の交流ということでいずれ、小学校入学になると一緒になりますので、ここは園の砂場で遊んでる姿が写真撮ってございますけれども、しっかり他の園の友達と交流をすることで、入学を楽しみにする気持ちが膨らんでくるということでした。

また、米子市小学校オープンスクールという重要な取組ですけれども、米子市では毎年６月に市内全23校で、年長児と保護者を対象にオープンスクールを開催しているそうです。

そして、こども同士、保護者同士こどもと先生、保護者と先生がつながるということで、こどもたちにとって園児でございますが、安心感、そして保護者にとっても学校理解をしていただくという取組を進めているということと、Ａ４の資料のほうに戻りますが、スタートカリキュラム研修会ということで、３月、年度末と年度初めの忙しいときですけれども、３月30日、４月３日、４月６日に、小学校の１年生の担任を対象としたカリキュラム研修会を開催されてるということでございます。

幼保小、そして小との連携を大切にしたカリキュラムということで、成果を上げているという発表でございました。

続きましてＡ４の裏にまいります。

これは、社会教育の発表ということで府中市の教育長さんから、生涯ともに学び支え合い地域づくりに生かす学びの向上を目指してということで、府中市のコミュニティースクールの概要、これは地域とともにある学校づくりと、学校を核とした地域づくりが両輪で、その両輪をつなぐ地区がこどもたちの学びで、これが非常に大きなキーワードですが、社会に開かれた教育課程ということで取組を進めていらっしゃいます。

実際に二つの学校の取組の事例を紹介されました。

一つが、府中市立国府小学校ということでここは、平成30年からコミュニティースクールの指定を受けて、令和４年にはコミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的推進に関わる文部科学大臣表彰も受賞されたようです。

この組織のところを御覧になっていただけたらと思いますが、大抵学校運営

協議会の下には、まなび部、こころ部会、元気部会というのがございますが、イベント部会というのがこれ大きな特徴だと思いました。

これは、キャッチフレーズが知り合い分かり合いつながり合うということですが、分かち合う、そういう喜びを地域と共有、学校とそして住民が共有出来ないかということで、今までそれぞれにすばらしい活動をされていましたが、それをさらに、地域住民全体のものにするための行事の一本化ということで、イベント部会で、国府エンジョイ祭という取組を行ってらっしゃるようです。

これは、すみません左下に書いておりますが、地域のみんなが触れ合うようなことがしたいということで、これまで公民館や学校それから保護者で、それぞれ行っていた取組を一つにして行っておられます。

始まりは当時の６年生の一言からということで、「私たちも企画運営に参加させてください」想像を超える内容の数々の提案は、６年生からされたようです。

看板ポスター、配布用パンフレット、招待状アンケート、クイズ大会カラオケバトルなどの催しもの、またはテーマソングやスポット等について、こどもたちの積極的提案を地域で応援しようということで、お膳立てはしないで自分で解決し、達成できる力を使うということで、特に大きなものが、次のページに移りますけれども、子どもコミュスク委員会の立ち上げということで、３か月に１回地域の方とともに協議し、単なる情報発信の場ではなくて、情報を共有し理解する場として、子どもコミュニティースクール委員は、大人と対等に話合い、いろいろな協議を進めているということで、中高校生も含んだ幅広い層を巻き込んだ活動がなされているようでございます。

それから、２番目の府中市立南小学校の取組でございますが、これも社会に開かれた教育課程の実現に向けてということで、２番目の星四角のところで学校と地域が抱えている現実問題、これはどこの地域もそうですが、学校の活動に地域は積極的でも、地域のこどもたちが地域の活動に十分参加出来ていない。地域にある公民館を利用するこどもが非常に少なく、利用者はほぼ高齢者に限られる小学生にも公民館のことをもっと知ってほしいし利用してほしい、そして多世代で公民館を身近な存在に改善してもらいたいということで、公民館がＩＣＴの推進に取り組まれて、令和４年度から、全公民館でＩＣＴ設備を行い、プロジェクトやモニターそれからＷｉ－Ｆｉの設備、そして、スマホ講座等の実施によって、地域全体をＩＣＴの活用で盛り上げていらっしゃるということです。

学校と社会教育につきましては、とにかく公民館が学校と地域をつなぐという、役目を果たして、日頃の活動とか、ＰＲを公民館がＩＣＴで地域に発信をしているということ、そして、いつでもどこでも学べる環境づくりということで、学校のほうにもしっかり地域の方を呼んで、学びの可能性とチャンスの創出をしているという取組でございました。

成果と課題については、そこに書いておりますけれども、やっぱりインター

ネットの環境の活用によって活動の幅が広がり、取組や情報交換、交流は一層進んだということで、ただ、これからそこに地域が公民館に求める役割として、生涯学習の活動拠点だけではなく地域づくりや、困り事解決の拠点、またコミュニケーションの場、そして、先人の方々の知恵を、こどもたちに共有しながらこどもも大人も双方向に学べる場、学びを追求できる場、そして人材の育成、人材発掘、地域課題の解決に向かう活動に、生かされる学びの場の創出が求められているのではないかということでございました。

本市でも、学校がなくなった地域の活力、それから地域で育まれた底力を、公民館を核として地域のこどもたちや大人によって持続可能にしていくためにはどうしたらよいか、学校が遠くなってしまった地域と学校を結ぶためにぜひこれからも学校と公民館との連携を、うまくつないでいくということで、これから考える非常に示唆に富んだ発表でございました。

以上でございます。

はい、大変すみません。早口で申し訳ございませんでしたが、何か御質問とかお気づきがありましたらお願い出来たらと思います。

委員　松本　孝志

すみません聞き逃したかもしれませんが、先ほど不登校対策のプラットフォームがあるじゃないですか、米子市教育センター、この中に入っているこどもたちの支援をする体制っていうのとか。

どのぐらいの職種が入っているとか。

教育長　南　順子

そこがちょっと具体的にはおっしゃらなくてただ、とにかくスクールソーシャルワーカーの増員をしたということで、この米子市のプラットフォームに、設置がされているかどうかという支援体制はその場ではおっしゃいませんでしたので、また聞いてみたいと思います。

はい、ありがとうございます。

大変大事なポイントでございましたが、ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

5　議案

教育長　南　順子

はい。それでは続きまして、議案のほうに入らさせていただけたらと思います。

議案の審議ということで、議案第55号、美祢市美東地域未来を拓く学校づくり協議会委員の委嘱について、教育総務課お願いいたします。

はい、岡崎課長。

教育総務課長　岡﨑　輝義

議案第55号、美祢市美東地域未来を拓く学校づくり協議会委員の委嘱について説明します。

議案は１ページから２ページ、資料は１ページになります。

美祢市美東地域未来を拓く学校づくり協議会は、美祢市美東地域において、地域の将来を見据え、児童生徒や教師にとって未来を拓く学校をつくるために設置しているものです。

委員は美祢市美東地域未来を拓く学校づくり協議会設置要綱、第３条第２項に教育委員会が委嘱すると規定しております。

この度、設置要綱、同条同項の第１号から第４号に該当する２６名を委員として委嘱したいので教育委員会の承認を求めるものです。

説明は以上です。

教育長　南　順子

はい、では、今説明のございました議案第55号について質疑等があれば承りたいと思います。

よろしいでしょうか。

はい、それでは、ないようですので、議案第55号の質疑は終了させていただきます。

お諮りいたします。

議案第55号、美祢市美東地域未来を開く学校づくり協議会委員の委嘱について、説明のとおり御承認いただけますでしょうか。

御承認いただけます方は挙手をお願いいたします。

【全委員挙手】

教育長　南　順子

はい、ありがとうございました。全員賛成ということで承認されました。

６　協議報告等

教育長　南　順子

はい、それでは６番の協議報告に移りたいと思います。初めに各課からの報告をお願いいたします。

教育総務課、岡崎課長。

教育総務課長　岡﨑　輝義

それでは教育総務課からご説明いたします。

資料１ページをご覧ください。12月の美祢市議会定例会では12人の議員から一般質問があり、教育委員会に関する一般質問は６名でした。

この一般質問の要旨及び答弁について報告いたします。

まず、藤井議員につきましては、１.美東地域における教育環境整備について

（１）施設一体型の美東小中学校の設立について、ア学校運営協議会の要望に対する交渉経緯と結論について、イとして立地、カリキュラム、組織などの具体策について、ウとして綾木小、淳美小跡地の利活用について、質問がありました。

答弁を抜粋しております。

「ア、学校運営協議会の要望に対する交渉経緯と結論について」につきましては、協議の経緯について時系列で、まず、昨年12月16日に、美東小中学校学校運営協議会から「施設一体型の小中一貫教育校に関する意見書」が提出されたこと、本年６月９日に美東中学校育友会会長、３小学校のＰＴＡ会長の連名で「美祢市立小中一貫教育校美東小中学校に関する要望書」が提出され、協議を重ね、10月２日に、美東小中学校学校運営協議会と協議を行い、できるだけ早い時期の小中一貫教育校美東小中学校の施設一体型の実現を目指し、まずは、大田小学校の校舎を活用して、３つの小学校を１つの新たな小学校として令和７年４月に開校することで合意し、最短で令和８年４月に施設一体型の実現を目指すということが、これまでの経緯です。

「イ、立地、カリキュラム、組織などの具体策について」につきましては、施設一体型の美東小中学校の立地は、既存の美東中学校を活用し、改修・増設等を行うことを考えています。

今後、美東地域で未来を拓く学校づくりに向けた協議会を立ち上げ、施設整備の方針等を含め協議を進めていきたいと考えています。

また、文部科学省のカリキュラムを編成する際の基準を示した「学習指導要領」を踏まえ、美東地域において、地域、保護者、学校で構成される、未来を拓く学校づくりに向けた協議会の中で検討する場を設け、その中で練りあがった意見や児童生徒の意見を取り入れながら、何より実際に学校で学ぶ児童生徒一人ひとりの幸せを願って、美東地域ならではのカリキュラムを作り上げたいと考えています。

なお、教職員の組織は、施設一体型小中一貫教育校になれば、校長は1名となり、職員室も1つにする方向で考えています。

「ウ、綾木小、淳美小跡地の利活用について」につきましては、

これまでの学校跡地の利活用の状況は、全体的に体育館及び運動場については、地域からの要望を踏まえ、地域の皆様が使用できるよう、地域の体育館及び多目的広場として設置、管理しています。

校舎については、地域からの要望をいただき、多くの場合、地域交流センターやコミュニティセンターとして活用されており、中には、桃木小学校のように山口県立宇部総合支援学校美祢分教室としての活用や、別府小学校のように公民館として活用しているケースもあります。

なお、地域での利活用の意向がない場合は、地域活性化に資する提案の募集を視野に入れるなど、市において利活用を検討してまいることとしております。

再編後の校舎等については、市の公共施設のあり方についての基本的な方針や各種施策との整合を図りながら、地域の要望を考慮し、跡地利用を考えてまいります。

次に猶野議員から、「３.秋吉台科学博物館の整備推進について」の質問がありました。

答弁として、秋吉台科学博物館は、昭和34年に設立され半世紀以上にわたり、秋吉台の研究、教育、保護に寄与してきましたが、長い年月が経過し、博物館活動を行う施設や設備の不足、老朽化が散見されるようになりました。

このため、教育委員会では、昨年６月に美祢市立秋吉台科学博物館建設基本構想策定委員会を設置し、建て替えを含めた構想策定について、協議を始めたところです。

再質問として、「秋吉台科学博物館の今後の展望について」があり、答弁として、

現在、建設基本構想の策定を進めており、秋吉台の学術的価値に基づき、地域の実情を踏まえた秋吉台地域の新たな研究活動や、賑わいの中心となる博物館の構想を策定することができるものと考えています。

平成28年１月臨時会において、議員提出決議案である「世界ジオパーク認定に向けた拠点施設の整備に関する要望決議」が、全会一致で可決されていることを真摯に受け止め、また、国際的価値の高い秋吉台の象徴的な存在であることを踏まえ、さらには、ジオパークの拠点施設として、多面的な角度から検討を重ねていく必要があると考えております。

施設整備には、膨大な費用負担が生じることから、財源確保は大きな課題であり、収益化による投資資本の回収といった観点からも検討を行い、着実に秋吉台科学博物館の整備を進めてまいりたいと考えております。

次に三好議員から、「２.地域循環型経済の取組について」、「（１）地元農産物の学校給食での活用状況について」質問がありました。

答弁として昨年９月定例会において、三好議員から質問があり、その際には、令和３年度の市内学校給食における地元産食材の使用率は、品目ベースで山口県産85.3％、美祢市産28.5％とお答えしております。

昨年度については、品目ベースで山口県産85.2％、美祢市産32.5％となっており、この1年間で山口県産は0.1ポイント減少していますが、美祢市産は4.0ポイント上昇しています。

この地産地消の推進に係る主な取組としては、市内小中学校で統一献立を実施しており、具体的に昨年度は山口県農業協同組合美祢統括本部から無償で提供していただいた、美祢市産の食材を利用して年３回、統一献立を実施しています。

また、学校栄養職員部会では、産地見学などを行っていますが、より一層の

生産者との連携を強化してまいりたいと考えております。

今後も、地場産物を学校給食に積極的に活用するため、関係部局や生産者、また農業協同組合等の納入業者との連携を強化するよう努めてまいりたいと考えております。

次に山下議員から、「１.食を通じて暮らしと健幸を支えるまちづくり」、「（１）給食センターによる提供先拡大の可能性」、「２.人が集まる魅力ある教育のまちづくり」、「（１）選ばれる小中一貫校への道」、「（３）大学のあるまちづくりの重要性」について質問がありました。

答弁として、１の（１）「給食センターによる提供先拡大の可能性」に対する答弁として、学校給食センターは、令和６年度２学期からの供用開始に向けて整備を行っているところであります。この給食センターは、提供食数を1,000食とし、整備することとしております。

また、児童・生徒数の減少が見込まれている中、既存の学校給食共同調理場を有効利用しながら、段階的に学校給食センターに集約することとしております。

したがいまして、当面は、施設の能力からして議員御発言の弁当の配食サービスを提供することは困難であると考えております。

今後、一層の少子化が進んだ時を見据え、給食センターの余剰となった設備や、食育に関わる知識や経験を活かし、高齢者福祉のニーズに対応したサービスの提供を検討してまいります。

また、給食センターの中には、レクチャールームを設置する予定であり、見学ができるスペースもあります。事前に御予約いただいた上で、このレクチャールームで保護者や市民の皆様に、どんな学校給食を食べているのか、食育も兼ねて、学校給食を試食いただく機会を設けていきたいと考えております。

２の（１）「選ばれる小中一貫校への道」に対する答弁として、市内の小中学校は、令和４年度から全市の学校が小中一貫教育校として９年間一貫した目標を掲げ、目標達成のために小中で教育内容を協議し、地域や保護者の意見を取り入れながら連続的、系統的にその地域ならではの教育課程を実施しているところです。

今後も、学校、地域、保護者、児童生徒の熟議を大切にしながら、教育委員会も積極的に提案や支援を行い、魅力ある学校づくりを実現していきたいと考えております。

この考えを具現化するため、教育委員会では、この度、魅力ある学校づくり検討委員会を立ち上げ、10月から今までに２回の会議を開催したところです。

美祢市の将来を見据え、様々な観点から活発なご意見をいただいており、今後協議を深める中で、これからの本市の学校の方向性が取りまとめられる予定ですので、施策に反映させてまいりたいと考えております。

このような取組が実現し、まずは実際に、学校で学ぶこどもたちが、楽しいと感じられる教育が継続されることにより、結果として、議員御発言の「人が

集まる・選ばれる学校」の姿に近づくのではないかと考えております。

２の（３）「大学のあるまちづくりの重要性」に対する答弁として、本市では、慶應義塾大学ＳＦＣ研究所と連携協力に関する協定を結んでおり、ｍｉｎｅｔｏ教育改革プロジェクトの一貫として、出張授業や合宿型のプログラムを通じて、教育分野で連携を進めております。

今後は、大学のスポーツ合宿等の誘致も検討してまいりたいと考えております。

次に田原議員から、「２.秋吉台の環境保全について」、「（３）オオウラギンヒョウモンの保護について」、「３.美祢市のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の取組について」、「（３）教育現場へのチャットＧＰＴの導入について」質問がありました。

答弁として２の（３）「オオウラギンヒョウモンの保護について」に対する答弁として、山口県では「レッドデーターブックやまぐち」を発刊されています。

この「レッドデータブックやまぐち2019」によると、現在では九州を除きほとんどが絶滅し、本州では秋吉台に限り生息しているとされています。

山口県自然保護課が、秋吉台においてオオウラギンヒョウモンの生息数等の調査を行ってこられた経緯がありますので、保護のためにはどのような対策が必要か、山口県自然保護課と連携し、調査・研究をしてまいりたいと考えております。

３の（３）「教育現場へのチャットＧＰＴの導入について」に対する答弁として、チャットＧＰＴをはじめとする生成ＡＩの活用について、文部科学省から「生成ＡＩの利用に関する暫定的なガイドライン」によれば、現時点では限定的な利用から始めることが適切とされていることを受け、本市においても、まずは、11月に中学生に対し、中学生用に設定された生成ＡＩを利用した小説執筆体験授業を実施しました。

教育現場では、ＡＩへの依存による思考力の低下等に配慮し、適切な指導と管理を行いつつ、正しく活用することで、ＡＩ時代において必要なスキルを養うことが重要であると考えております。

また、今後は、指導を行う教職員の研修も必要であり、教職員が生成ＡＩを利用できる環境づくりを検討してまいりたいと考えております。

最後に、髙木議員から、「２.文化振興について」、「（１）秋吉台国際芸術村について」質問がありました。

答弁として、

市といたしましても、市民や学校に対する情報発信や利用促進に努め、令和８年３月の指定管理期間満了後も、存続されるよう、県に要望してまいりたいと考えております。

再質問として、「市出身者や市内に芸術家もいるが、秋吉台国際芸術村がなくなった場合のこの方の芸術作品を市民が鑑賞できる場所の可能性について」

があり、答弁として、令和４年度に基本計画を策定しました新しい図書館には、様々な複合機能を持たせることとしております。

現在、具体的な複合施設について検討をしており、芸術作品などを展示するスペースを設ける方向で、進めていけたらと考えております。

新しい図書館は、来館者が、気軽に芸術作品を鑑賞できる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

更に、再質問として、秋吉台国際芸術村の廃止・移譲問題が再燃すると思うが、どう対処するつもりか。があり、答弁として、市が、秋吉台国際芸術村の譲渡を受けることは、財政的にも困難であると考えており、現状のとおり、県において存続されることが望ましいと考えております。

そのため、本年11月30日に、秋吉台国際芸術村のポテンシャルを十分に発揮できるような修繕等や利便性向上のための予算確保について、また、本市の周辺自治体との連携による戦略的な施策を講じることによる長期的施設運営がなされる旨、直接、県知事に要望したところであります。

教育長　南　順子

一般質問の答弁について御丁寧な説明ありがとうございました。

何か今の時点で御質問とかございましたらお願いいたします。

質問が無いようですので（２）魅力ある学校づくり検討委員会についての報告をお願いします。

岡﨑教育総務課長。

教育総務課長　岡﨑　輝義

（２）美祢市魅力ある学校づくり検討委員会については、開催状況について報告します。

第１回を10月30日に開催しました。委員長は、山口大学教育学部、鷹岡学部長が、副委員長は、山口県立大学社会福祉部、藤田学部長が選任されました。

第１回の協議題は、美祢市の小中学校の状況について事務局が説明し、美祢市の高等学校の紹介について委員である各学校長が紹介され、美祢市の幼稚園・保育園の紹介について委員である各園長が紹介されました。これらを踏まえ、委員から美祢市の魅力ある学校についての思いを伺いました。

第２回は、11月27日に開催しました。協議内容としましては、育てたいこども像について、魅力ある学校について、先進地視察について協議しました。

まず、育てたいこども像については、市内小中学校区域別の育てたい子ども像、第１回の会議録から委員の思いの中でキーワードを抜き出したものを事前に送付し、その中で委員の意見を伺いました。魅力ある学校づくりについては、第１回の会議録から、参考になる意見を事前に資料を送付し、委員の意見を伺いました。

先進地視察については、京丹後市の保幼小中一貫教育を視察することになり、

年明けの１月18日、19日で行く予定です。

また、第２回で協議した育てたい子ども像、魅力ある学校については、意見をまとめて、第３回で確認するとともに、美祢市の弱みや強みや課題を協議する予定です。

第４回以降は、具体の施策について検討し、第８回（９月）で提言書をまとめていければと考えています。

説明は以上です。

教育長　南　順子

はい、ありがとうございました。

この検討委員会、本当に今２回の会議録を、御手元にお届けしておりますけども、大変な起こす作業を総務課のほうで、これまで班長中心にやっていただきまして本当にありがとうございました。

またいろいろ、課長のほうでまとめてポイントを示していただきましたけども、ざっと御覧になられて、何かお気づきとか感想等がありましたら、この場で言っていただけたらと思います。

ぜひこういうことも取り上げることが必要じゃないかとかこういう方向に、この会議を持っていけたらいいんじゃないかというような、そういう御提案でも結構でございます。

はい、金子委員、どうぞ。

教育長職務代理者　金子　明美

提案ではないのですが、１回目の協議の様子を読ませていただいて、それぞれのお立場からこれからのこどもたちがどうあるべきかという本当に熱い思いが言葉から伝わってまいりました。

委員の方も、本当志を持って参加しておられるのだなというふうなことを感じておりました。

これから提言が求められるということなのですけれども、きっとこどもたちにとって進むべき道といいますかね、それが本当、示されるんではないかなととても期待を持ちました。

はい、感想でございます。

教育長　南　順子

ありがとうございました。

すみません、２回目は今、御手元に渡しておりますので申し訳ございません。

私のチェックが遅れまして、大変御迷惑をおかけしました。

１回目のほう、今金子委員さんのほうから、感想をいただきましたけども、ほかの委員さんで、感想があればお願い出来たらと思いますが、よろしいでしょうか。

指名をして大変申し訳ないのですが、もし何か、松本委員さんが御覧になられて、お気づきとかありましたらお願いします。

委員　松本　孝志

１回目の方はまだ自分の思いを語られていたので先ほど金子委員さんが言われたようなことを思いました。

２回目でより具体的な内容になるかなと考えているのでしっかり読ませていただこうかと考えています。

教育長　南　順子

そうですねまた次回でぜひお気づきお願い出来たらと思いますありがとうございました。

山本委員さんいかがでしょうか。

委員　山本　亜由美

今、２回目を読んでいたんですがオルタナティブスクールって何ですか。

教育創生監　宇野　勇気

文字の直訳だと、もう一つの選択肢っていう意味になるんですけど、そのオルタナティブスクールって言ったときには、既存のカリキュラムでゴリゴリ固まった公教育に対して、もう少しこういうゆとりがある、こどもたちにとってどういうことがいいんだろうっていう組織として学校はこうあるべきっていうのが、今の公教育だとした時に、どちらかというとこどもに対してどうあるべきかという趣旨でつくられた学校が多いですね。

一番の違いとしては、いわゆる中学校段階ですと、義務教育なので、卒業の証、どこの学校に行っても卒業に値するんですけど、高校のオルタナティブ教育の時が一番大きく変わると思っていて、卒業証明書がもらえない。

その代わりに、高卒認定試験を学校にも行っているものの、また別で行ってやるっていうのは大きな違いではあるんですけど義務教育段階でいうと、大きな違いはないんですが、１番は家庭の思想ですね。

そこがそういう学校を受け入れるかどうかっていうのが、差が出てくる部分かな。

そういった学校を総称して、何かこう、オルタナティブ教育だからっていうのはないんですが、一般的にイメージする公立の学校とは違うところ、もちろん私立でも一般的な枠組みのものはオルタナティブ教育ではなくて、既存の枠に当てはまらない学校を総称してオルタナティブ教育って言うようです。

教育長　南　順子

またすみません、第２回の記録もぜひ読んでいただいて、また御感想等お気

づき等いただけたらと思います。

ありがとうございました。

それでは続きまして、協議報告のほうに移らさせていただけたらと思います。

学校教育課、中島課長お願いいたします。

学校教育課長　中島　幹晃

失礼いたします。

委員さん方の御机上に、はつらつ山口っ子のチラシを置いておりますので御覧ください。

１回目は実は12月の17日の日曜日に放映されております。

お見逃しになった委員さんにおかれては、再放送が１月21日にございますのでお知らせでございます。

上関小中一貫校とあわせて、大嶺中学校が今年度ジオパークの全国大会で発表したということもございますので、地域、それから小学生から、卒業生の高校生、教員、ＰＴＡまで集まって、ジオパーク学習を９年間でどのようにして、実施していけばいいのかという、熟議をした様子などを中心に、ＫＲＹで放映されております。

このはつらつ山口っ子は、山口県内の先進的な取組を、毎年、年間４回ずつ放映している番組です、そこで、取上げられたということで、とてもよい取組になってきていると思っております。

続きまして（２）として、美祢市の学力向上に向けてという資料を配付させていただいております。

10月に、山口県内で実施されました、山口県学力定着状況確認問題これは、タブレットに記入する形で実施するＣＶＴ方式が昨今はとられている問題ですけれども、その結果が出ましたので御報告をさせていただきます。

まず大きい１番の（１）学力についてということで、小学校の５年生から中学校の２年生までの左側が国語、真ん中から右側が算数、数学になっております。

知技と書いてあるのが知識技能、それから、思判表と書いてあるのが、思考、判断、表現、応用力になります。

ついております数字は県平均との差になっております。

小学校５年生、下線部がいずれも引いてあると思いますが、下線部が引いてございますものが、県との差が大きいというふうに判断しているものでございます。

小学校５年生については国語、算数、いずれの分野についても、県との差が大きいということで、下線部を引いております。

また、縦に見ていただきますと、算数、数学の知識技能のところが、小学校６年生はプラスになっておりますが、残りの３学年とも、程度の差はあれマイナスがついておりますので、評価的には算数数学、特に知識技能的なところ、

にマイナス要素、課題があるというふうに見てとれます。

その下に、課題を簡単にまとめているところがございます。

小学校につきましては、小学校５年生、文章要約や作文、こういった応用のところ、それから小学校６年生の基礎計算力というあたり、こういったところの基礎的な部分と、あと応用的な部分、やはり課題が見られております。

中学校につきましても、中学校の１、２年生、中学校１年生の数学あたりで基礎計算力であるとか、言葉の問題、そういったところの基礎的なこと、それから中学校の２年生の数学英語にございますように、資料の活用であるとか、作文といった応用的な部分、このあたりにも、やはり両方を課題が見られております。

（２）質問紙の回答として、テストだけではなくてアンケートもとられています。

主なものを載せております。全体的に数値が低かった小学校５年生につきましても、質問紙の回答につきましては、県の平均よりもプラスの項目もございますが、やはり、黒丸の課題のほうがやや目立っております。

特に、課題の、中点の、最初、自分にはよいところがあるという数値が県平均に比べて、明らかに低くなっているというところ、それから国語の勉強が好きだというところも、県平均より若干低くなって、それから１番下、学校の授業以外で、１日どれぐらい勉強しているかというのも県平均に比べてやや低くなっておるところが特徴になります。

今のような指標で、１枚めくっていただきまして、小学校６年生、中１、中２と見ていきますと、小学校６年生につきましては、国語の勉強が好きだというのがプラス、さらに算数、英語の勉強が好きだという数値についてはかなり県平均を上回っている。小学校６年生については、そういう状況でございます。

また、６年生の成果の下から２番目で、１時間以上勉強というのもプラスになっております。

自分にはよいところがあるというのがほぼ県平均と同じというところでございます。同じくそこを指標にして、中１、中２を見ますと、中学校１年生については比較的数値も高いんですが、国語の勉強が好きだというのがやはりプラス、数学、理科、英語についてはかなりプラス、自分にはよいところがあると思う、もプラスになっております。

ただ、やはり１時間以上勉強というのは、若干低い状況。中学２年生については、国語が好きだという数値は高かったんですけれども、課題の２番目、自分にはよいところがあるについては少しマイナス、１時間以上の学習をしているかということについてはマイナスといったところで、やはりこういった学習の習慣、あるいは国語の勉強が好きだというような基礎、基本的なところの影響、それから自分には良いところがあるという自己肯定感、こういったあたりが点数にも反映してるふうに見てとれますので、そういったところを今後の我々の指導、あるいは学校との共通理解、そういったところで図っていきたい

と思っております。

次のページに簡単に分析も載せております。

（３）分析のところには中点の最初、やっぱり小学校の５年生の国語算数、中学校の算数、数学に課題が見られております。中点の二つ目、授業以外での学習習慣に課題があるというところ、中点の三つ目、ＣＶＴ、タブレットを使ったテストへの対応という、ここに書いてございますのは、実際に現場の声を拾っていきますと、やはりテストで、日頃の実力からすると０点をとるようなことは絶対ないのに、操作がうまく出来なくて０点を取ってしまったというような学校の現場の報告もありますので、そういったところのやはり日頃から今後のＩＣＴ活用スキルの向上、こういったところも一つの要素になってくるというふうに考えています。

大きな２番、今後の対策といたしまして白丸の一つ目、まずは、しっかりと教育委員会のほうでデータ分析、やはり学年によってプラスの成績が出るところ、マイナスの成績が出るところがございます。

この度であれば、小学校の６年生、中学校の１年生については、かなり成果も見られていました。

我々、やはり自由進度学習を１年以上今続けてきている成果、その辺りが出ているのだろうとは思っておりますが、それをデータ的にちゃんと分析していく必要があろういうふうに思っています。

また、小学校の５年生がやや低い数値が出たということについても５年生でいきなりこういう数値が出てもですねその前、小学校の３年生４年生段階どうだったのか、そういったところの数値も収集していく必要があろうかというふうに考えています。

実はＱｕｂｅｎａの中に新しい機能として、単元末確認テストという機能が追加されております。

それを小学校の３年生、４年生でも全部が全部させるつもりはございませんが、ある程度こちらのほうで指定してですね、小学校３年生、４年生段階から、少しそういう単元末確認テストをＱｕｂｅｎａで、してもらってですね、その学年の状況を３年生４年生段階からこちらで把握して、学校と一緒に対策を練っていくというようなことも、今考えておるところでございます。

それから、今後の対策の白丸の二つ目、三つ目には、自由進度学習の実践事例を増やすということと、自由進度学習の質の向上というのがございます。先ほど、基礎基本にもやはり課題がありますし、応用にも課題がそれから家庭学習にも課題があるというふうに申し上げましたけれども、やはり自由進度学習、それからＱｕｂｅｎａの活用、こういったところでですね、しっかり基礎基本に時間をかける、しっかりこどもたちが時間をかけて基礎基本に取り組むことができる。そして、たくさんの問題に当たることができるそういったことを保障するにはやはり自由進度学習というのが、適した学習方法ですので、そこで、時間が短縮できれば先ほどの応用問題、そういったところに取り組む時間も確

保できるというふうに思っております。

さらに、こどもたちに見通しを持たせるというのが自由進度学習のキモでございますので、その見通しに対してですね、自分で宿題を決めさせるというような循環に持っていければ、こどもたちが、やらされるのではなく、自分から自分はここが足りてないので、家でここを補充してこようというふうに、こどもたちが自分の進度をですね、家庭学習も含めてマネジメントしていけるようなそういうふうに自由主導学習が、さらに質が向上していけば、先ほどの三つの課題に少しずつアプローチできるというふうに考えております。

最後のページに、担当進度主事がもう既に各学校に回って、今のようなことを各校長、教頭、それから研修主任と一緒に協議をして回っております。

12月中に回れないところには、１月に回りましてですね、４月に向けての準備を今、しておるところでございますので、また４月に全学調ございますけど、その結果を見てですね、しっかりと取組を進めてまいろうというふうに考えております。

以上でございます。

教育長　南　順子

今の報告につきまして、何か御質問等がありましたらお願いいたします。

山本委員。

委員　山本　亜由美

先日この学力調査を、タブレットで今回答送るんですっていうのを先生に聞いたんですけど、やっぱり３年生とかそういうちっちゃいうちから、このキーボードの使い方を早く打てるようにしてくださいって言われたんですけどやっぱり６年生のこどもに聞いても、問題がちょっとどんなのが出たのか分からないんですけど、やっぱりその使い方が分からなくて、答えられなかったとかいう話を聞いたので、やっぱりもうちょっと、タブレットの使い方を学校で学ばせてもらえたら、そのこどもたちの回答率も分かっているのに答えられないっていうのがあるので上がっていくのかなというふうに思いました。

教育長　南　順子

ありがとうございました。

保護者の方の貴重な御意見です。

対応していけたらと思います。

ありがとうございます。

はい、どうぞ、中島課長。

学校教育課長　中島　幹晃

はい、ありがとうございました。

今、指導主事各学校回っておりますが、そういったこともう１回、課内で共有して学校にもおろしていきたいと思いますありがとうございます。

教育長　南　順子

今の件につきまして、御質問等がありましたらお願いいたします。

よろしゅうございますでしょうか。

はい、金子委員。

教育長職務代理者　金子明美

今の学力テストですかね、これからもタブレットを使ってという方向なんでしょうか。

教育長　南　順子

はい、中島課長。

学校教育課長　中島　幹晃

はい、ありがとうございます。

今後はですね、どんどんそちらの方向に進む一方で、全国学力調査のほうはまだ紙なのですけれども、今後はＣＶＴ方式、タブレットでやるようになります。

教育長　南　順子

はい、よろしいでしょうか。

しっかり見ていただきまして、また御質問とか御意見がありましたら次回でもよろしくお願い出来たらと思います。

続きまして、ｍｉｎｅｔｏの特別講義ですか。

はい、お願いします。

教育創生監　宇野　勇気

はい、もう既にホームページには掲載をさせていただいておりまして、来月の１月の「げんきみね。」でも同じように取上げ、チラシを全戸配布で配布予定なのですが、来年１月28日の日曜日に、宇宙飛行士の金井さんという方が美祢市にいらして講演をしていただきます。

この講演が公設塾ｍｉｎｅｔｏとのタイアップのような形で１部、２部に分かれていまして１部が金井さんの講演になります。

２部では現時点ではｍｉｎｅｔｏの大越さんに、いつもｍｉｎｅｔｏでやっているような、授業を少し市民の方にも聞いていただこうという取組を予定しております。

詳細については記載のとおりで、申込みに関してはオンラインでＱＲコード

を読み取っていただくか、裏面にございますように往復はがきに書いていただく二択で申込みを必須という形にしております。

場所は市民会館で、当日は市教委からもスタッフとして運営に補助する予定でございます。

はい、以上でございます。

教育長　南　順子

はい、何か今の件につきまして御質問がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

もし今御都合がつけば、教育委員の皆様方もぜひまた御家族の方とも御一緒に御参加のほうをいただけたらと思います。

入場は無料ということでございますので、よろしくお願い出来たらと思います。

はい、それでは続きまして、お待たせいたしました部活動の地域移行と現状についてお願いいたします。

総括コーディネーター　久保　仁

はい、失礼いたします。

学校部活動の地域移行と現状、それから今後の予定について、プレゼンを使いまして、少しお時間をいただいて説明をさせていただきます。

まず、部活動の地域移行に関してなんですが、いきなり数字が出て大変申し訳ないのですが、数字で客観的に現状捉えていただきたいという思いがありますので、数字のほう見ていただければと思います。

市内５校中学校がございますが、現在432名、中学生の数が１番右側の１番下の数になりますね。

私がこの委員会でお仕事をしておりました、以前ですね、平成の末期、これは小学生が1,000人、中学生が600人という数で仕事をしていたんですが、先ほど給食センターの数でも出ていましたね、小学生・中学生合わせて1,000という数ここ数年でもそれぐらい減ってきているということです。

それからもう一つ特徴的なのは美祢で特徴的なのは430のうち過半数、202名以上が、一つの中学校大嶺中に行っている。

残りの半数よりも少ない数を残りの４校に通っているのも、美祢市の特徴だろうと思っています。

次のスライドに移りますが、この傾向がですね残念ながらしばらく続いております。

今年度３学年で430ということなのですが、令和４年度、昨年度ですね、昨年度美祢市で生まれたこどもたちの数、１学年に当たります。何名になるかというとですね、昨年57名です。

この57名が、15年先、美祢市にいた場合に、多分、中学生の数は、200を切

ってくる。ということが想定されるということです。
こういう部活動の地域移行する背景としてこの数をどうしてもお示しすることになってしまいます。
現在の中学校の部活動の状況です。
いわゆる３年生が部活動を引退しますので、１年生で今、構成されている部活動の状況になります。
ここで押さえておきたいのは、これまでも学校はですねそれぞれ、努力をされ、近隣の学校で合同部活といったもので取り組んでおられました。
例えばこの表の中で言えばですね、バレーボールを見ていただきましょうか。バレーボールの女子の美東と秋芳ですね。これは合同部活で活動しておられたんですが、現在は美東が４名、秋芳が１名ということで合同で活動しても団体戦の試合に出れる６人に満たないという状況が生まれてきてしまっています。
それから卓球部、これも大嶺中除いて全ての４校にあるわけですが、３名から５名ということで、団体種目に出ることは出来ません。
卓球で団体出る場合は６名必要になりますので、いずれの４校も団体戦には出ることが出来ない状況があるということで、それから野球のほうもかなり限界が近づいてきております。
美東中は２名、伊佐中は５名の部員ということです。
それから色がついている背景のところは大嶺中にしかその部活がありません。
それからここで押さえておきたいのは文化部です。
いわゆる文化部は、美祢市は吹奏楽しかありません。
それが大嶺中と美東中にあるということです。
ここでも困ったことが生じて来ていて、厚保小や秋芳桂花にはマーチングが小学校のときにあるのですが、そのまま中学校に行った場合には、厚保中にも、秋芳中にも、吹奏楽はないという状態が生じております。
今言ったいろんな背景があるのですが、その中でも一番は美祢市の場合は生徒数の急激な減少、これをどうしても押さえておきたいというところになります。
それぞれの部活動がなかなか成立しない今、このまま置いとくと休部という状態になって、その種目をこどもたちが出来ないという状況がどんどん生まれてきています。
そうは言ってもこどもたちは、アンケートによれば、多様なニーズを持っています。
先ほどの表で少し触れませんでしたが、伊佐中や厚保中では、選択肢が二つしかない。それも、スポーツの部活に限り、野球と卓球しかない、野球とテニスしかない、選択肢が非常に限られてしまっているという状況があります。
当然この部活動改革については、教職員の働き方改革という、いうような背景もあります。

今も言いましたが、学校も複数校で合同部活をするとか一生懸命努力をされてきましたが、いよいよそれでも現行部活の限界が生じてきてしまっている。

このまま置いておけば、美祢市の中学生では、スポーツや文化活動の機会が失われてしまう。こういう危機が迫っているというふうに捉えております。

そこで私どもは、校区の枠を超えた活動、地域移行、これを考えておるわけでございます。

当然このことはですね美祢市だけに限ったことではなくて、文化庁、スポーツ庁のほうもガイドラインを出しましたし、それを受けて今お示ししているのは山口県の新たな地域クラブ活動の概要になります。

ガイドラインの概要になりますが、これを見ると、やっぱり地域の実情がそれぞれ違うのでそれぞれに応じて進んでいくようになります。

県としては令和７年度末までに休日の部活動、これを地域移行するっていうところを大きな目安にしているようですが、当然そこはいろんな市町の実情によって違っています。

美祢市の場合は先ほど言ったようにかなりもう追い詰められるといいますか、こどもたちの数が減ってきてしまって、部活動の存続が難しい状況にあるので他市町に比べて少し急ぐ必要があるというふうに思っております。

今、お示ししたのは美祢市における部活動の地域移行に関する具体的なスケジュール感になります。

今、令和５年度ということなのですが、この令和５年、６年を基本的には準備期間として位置づけて、令和７年に学校部活を終了して、令和７年度、いわゆる新チームから全て学校部活を地域クラブ活動へ移行していきたいというふうに考えております。ただ、受入れ主、競技種目によっては受入れ団体の都合で、少し早く、特に野球はそうなのですが、もう先ほど表でもお示ししたように、２人で活動している学校もあるような状況ですので、１年早めてくださいというような要望も出て、野球は令和６年の新チームから地域移行しましょうということで、今、計画が進められております。

まずは令和６年度は休日ですね、基本的には土曜日になるんですが、土曜日のクラブ活動を地域クラブ活動として位置づけて活動していきましょう。

ということを今考えております。

あとこの表で押さえておきたいのは、

平日の部活動をやめた場合、平日のこどもたちの活動なんですが、今は週に５日間、基本的にはクラブ活動を行っていますが、受入れ団体の都合、あるいはこどもたちが選択肢をたくさん持って欲しいよっていう思いもあって週に３日、休日が１日、平日が２日の活動ということで、制度設計を進めておるところでございます。

これが現状のですね、受入れ団体あるいは活動の状況なんですが、剣道サッカーはもう４年度より、休日、それから平日も含めて地域をした活動を行っております。

軟式野球は今言ったとおりでございますが、１年早めて、令和６年度より、毎週土曜、日曜日、地域活動をしていきたいというふうに思われています。

ソフトテニスが、美東、これは、御承知置きのとおりと思いますが美東中では、先行実施を令和４年度から行っておりますので、美東についてはソフトテニスは令和４年度から休日の地域移行はもう始まっております。

美東中以外のテニス部については令和６年度より開始することとしております。

卓球は12月から始まったんですが、毎週土曜日、みんなで合同の練習をしております。

というふうにですね、以下、いろんな種目によってかなりスピード感が違うんですが、受入れ団体の都合等もありますのでこういう開始の時期がずれてきております。

最近ですね、バレーボールが受入れ団体が決まりまして、令和６年度からやりましょうということになっております。

陸上競技、協議が継続中となっておりますが、ほぼほぼ受入れ団体のほうが、めどが立ってまいりました。

新年を迎えてですね１月、２月には、指導者講習会も開く予定にしておるところでございます。

次の表がですね最終的に、令和７年度からの休日のクラブ活動の様子になります。

活動場所、あるいは指導者のほうも、そういうような形で指導したい人が誰でもできるっていう状況ではいけないと思います。これまで部活動が担ってきた教育的な意義それを十分継続していただける方にということで、基本的には、それぞれの競技の連盟であったり、協会にも一緒に入っていただいて、継続的に安定した指導が続けられるように、体制づくりを考えております。

今サッカーや剣道、送迎が保護者、赤字で書いてありますが、そこも今後はスクールバスで休日については送迎ができるように、制度設計していく必要があるだろうというふうに思っております。

赤字、指導者の関しての赤字のところ、バレーボール陸上、吹奏楽、大嶺っていうところは、これは実はですね、この１か月の中で決まったところでありまして、それまではまだ協議継続ってやっていたところなのですが、最近になって、このあたりも随分、明確になってきたというか指導者が見つかってきた指導体制が整ってきたところでございます。

はい、今お示ししているのはＭチャレスポーツ、Ｍチャレカルチャーの様子なんですが、先ほども言いましたが美祢市の部活動を地域移行した場合にこどもたちの活動が１週間に３日というお話をしたと思います。

これまでの５日間に比べてかなりこどもたちには余裕が生じてくると思いますので、そのこどもたちの受皿の一つとして本年度から立ち上がったものでございます。

本年度は18講座開催をいたしております。

それぞれが半日単位のワークショップ的な活動になります。

現在、先ほどお見せした美祢市の地域移行のクラブ活動が10種目あるんですが、それ以外ではこどもたちのニーズに十分対応しきれてない部分もあると思いますので、人気のあるバトミントンやアーバンスポーツと言われるボルダリングや、スケートボード、そういったものも、ワークショップとして開催をしたところであります。

それから吹奏楽しか文化活動ありませんよというお話もしましたが、Mチャレカルチャーという形で、そういう文化面に対して参加したいというこどもたちのニーズにこたえるものとして、Mチャレカルチャーが立ち上がったものでございます。

かなり一つ一つの内容はすばらしいもので参加したこどもたちの、アンケート結果は非常に好ましいものでありましたが、これも続けていくのはなかなか、お金の面もありますし、指導者を見つけていくという課題もあります。

卓球部、12月に合同練習を始めたものです。

市内小規模校４校に全て卓球部があるんですが、普段はですね３人で練習していたり、多くても５人で練習している卓球部です。

それがこうやって伊佐中学校に一堂に会して卓球台がずらっと並んでいる様子、これにこどもたちは新鮮に思っていたようです。

それから、たくさんの人数でお互いに磨き合うといいますか、切磋琢磨して活動する様子、刺激し合って活動する様子、私見ていてもですね、非常にこれはいい時間だなあと本当に思いました。

やっぱりある程度の人数がないと、こういうか、こどもたちの活動は成立しない部分もある分野もあるというふうに感じたところです。

山口側は美東中、下関側は厚保中学校になりますので、どうしても活動はですね真ん中の、伊佐中学校でやるようになります。

それぞれが30分ぐらいかけて、スクールバスで連れてまいります。

こういった練習ですね、３人でローテーションしながら一つの台でこどもたちは普段出来ない練習なので、非常に新鮮に感じ、一生懸命やっていたように思います。

なお、この様子がですね、今日、たまたま今日なんですが、ＮＨＫが夕刻放送します情報維新やまぐちですか、その中で、美祢市の学校部活地域移行への取組の様子が今日放映されますので、ぜひ委員の皆様ももしよろしければ御覧になっていただければと思います。

そんなに長くはないと思いますけど、ほかにも下関市の取組も、取材しているというような話がありました。

この日はですね完全地域移行した日なのですが、各学校の先生方もこれは厚保中ですかね、厚保中の先生方も来ていただいて、こどもたちの活動する様子も見守っていただいております。

非常にありがたかったですね。

先ほどから東は西はという話をしていますが、美祢市の弱点としては非常に広い範囲に学校が散らばっているというところ、ただ、美祢市の強みとしてはですねスクールバスがあるよっていうところですね。

今、それぞれの種目を秋芳中、伊佐中、大嶺中に会場、合同地域活動の会場として、美東中、秋芳中から連れてくる。厚保中から連れてくる。

そして、送迎送っていくっていう形でイメージを考えております。

バスルートを考えております。

これが休日の動きになります。

今後の大きな課題としてはですね休日はどうにかこうやって送迎する時間も確保出来てこどもたちも活動できるんですが、要は平日の２日ですね。

この２日をどうやって充実した活動につなげていくか、これが今からの５年度の残り、それから令和６年度の１年間かけてやっていく大きな課題だろうというふうに思っています。

準備したプレゼンは以上になります。

教育長　南　順子

はい、ありがとうございました。

今、久保コーディネーターのほうから説明をしていただきましたのが、美祢市で取り組んでいる地域移行の現状でございます。

本当に久保コーディネーターを中心に、事務局の皆さんもいますが、丁寧に、丁寧に話合いを重ね、協議を重ねながら、今ここまで進めていただいております。

何かお気づきとかまた感想御意見等がありましたら、お願い出来たらと思います。

よろしいでしょうか。

はい、それでは今日何時から情報維新であるのでしょうか。

総括コーディネーター　久保　仁

夕方番組はですね、６時10分から７時まであると思いますがその中の、はい、どこかで、特集になっていると思います。

教育長　南　順子

はい、どうもありがとうございましたまた。

ぜひ御覧になっていただけたらと思います。

ありがとうございました。それでは特に御質問がないようでしたら次の生涯学習スポーツ推進課のほうにまいりたいと思います。

はい、野村課長お願いいたします。

生涯学習スポーツ推進課長　野村　一守

はい失礼します。

本日、すみませんお配りしました、１枚物の両面刷りで刷っております資料、ですね、令和６年、美祢市二十歳のつどいと書かれたもの、こちら、御覧なっていただけますでしょうか。

はい、まず概要でございますけれど、令和６年１月の７日、日曜日に行います。

９時から受付で10時から式典ということで予定をしております。

会場については、美祢市民会館の大ホール、大ホールの入り口ロビーのトイレの工事も無事、何とか終わりましてですね。

トイレも使えるようになっております。

対象につきましては、令和５年度内に満20歳を迎える方ということで、対象者が221名でございますが、今現在131名の申込みがありまして、参加率が59.3％ということになっております。

ちなみに、１年前の今年の１月に行いました二十歳のつどいについては66.5％ということで、少し参加率が下がっているというところになっております。

当日の日程でございますけれど、９時から受付10時から式典ということで、昨年とちょっと違うところが、代表挨拶のところで各地域美祢地域美東地域、秋芳地区から代表の方の御挨拶をいただくのですけど、大谷春樹さん、パラサイクリスト。

世界でも、活躍をされているパラサイクリストこの方がちょうど20歳で、この度の対象者ということで、大谷さんのほうにも代表の挨拶ということで、していただくようになっております。

10時40分からアトラクションということで、美祢市出身の女子プロレスラー、岩谷麻優さん。この方にビデオメッセージをいただけるようになっておりますので、ビデオメッセージを少し流しまして、そのあと吉本興業所属のですね、お笑いコンビ20世紀、これ実は12月の24日でしたかね、Ｍ１の敗者復活戦に出場をされまして、残念ながら決勝進出にはならなかったんですが、この方々が来ていただきまして講演をしていただくということで、御一人が美祢市出身の方で、相方の方が山陽小野田市出身の方ということでございます。

実際、この方々が20歳を迎えられたときにですね、実際ここで二十歳のつどいに参加をされまして、そのときにも、漫才を披露していただいております。

11時半から記念撮影を行いまして12時半から交流会という流れになっております。

二十歳のつどいについては以上でございます。

教育長　南　順子

はい、ありがとうございました。

今の報告につきまして、何か御質問がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

この式典には教育長職務代理の金子委員さんにも御出席ということでございますので、よろしくお願い出来たらと思います。

続きまして、次のＭチャレについてお願いいたします。

はい、野村課長。

生涯学習スポーツ推進課長　野村　一守

はい、それでは今の資料の裏を御覧ください。

Ｍチャレチャレンジスポーツ冬季ということでスケジュール日程等をお示しをしております。

12月17日から始まりまして、全部で冬季は五つの種目を行うようにしております。

12月17日のラグビーにつきましてはもう既に終えておりますが、実績につきましては、参加者がちょっと少なくて５人でした。

雪が舞う中だったんですけれど、外でやりましょうということで大嶺高校の記念多目的広場のほうでラグビーの体験をしていただきました。

ラグビーフットボール協会のほうから、ラグビースクールに参加しているこどもたちも一緒に来てくれましてですね結構な人数で、ラグビーの体験等が出来ました。

年が明けまして１月14日に、ハンドボール、こちらは山口銀行のＹＭガッツ、の方々に御指導いただくようになっております。

１月21日にはダンスということで、これはですね、今、温水プールを指定管理をしてもらっておりますＭＩＮＥスポーツマネジメント共同企業体、こちらのほうにダンスの講師を照会していたところ、山口市の大井さんという方に講師をお願いできるということでございまして、大井さんを迎えましてサンワーク美祢のほうで、ダンスの体験をしていただくようにしております。

このハンドボールとダンスにつきましては現在、募集中でございます。続いて１月28日に空手、これは美祢市の空手道連盟の方に御指導いただきます。

２月４日にサッカー、これも美祢市のサッカー協会の方に御指導いただくようになっております。

冬のＭチャレスポーツにつきましては、この五つの種目で実施をしてまいります。

Ｍチャレにつきましては以上でございます。

教育長　南　順子

はい。何か御質問や御意見がありましたらお願いいたします。

よろしゅうございますでしょうか。

はい、それでは続きまして、文化財保護課は本日はないということで次の世界ジオパーク推進課、神田課長お願いいたします。

世界ジオパーク推進課長　神田　高宏

はい、それではＭｉｎｅ秋吉台ジオパーク再審査について御報告いたします。先月11月25日から28日にかけまして、日本ジオパーク委員会の調査員２名が本市を訪れ、再認定審査に係る現地調査が行われました。

先ずはその際の映像を御覧いただけたらと思います。

こちらは荒川の水平坑で地域の方が調査員に活動を説明しているところです。

荒川清心会の皆さんです。

こちらは森の駅で行った、「炭を使っていもを食う」というイベントで調査員も参加していただきました。

こちらは隠岐のヤゴダ委員という方です。

森の駅ではピザづくりも一緒にやりまして、非常においしくいただいております。

こちらは橋詰委員という、日本ジオパークの委員になります。

今回は室戸ジオパークの芋も使っており、室戸ジオパークとオンラインで結びまして、大地の特徴を紹介してもらったところです。

ここは桃ノ木露天掘りの跡になります。

ここで当時働いていた方に説明をしていただいているところです。

これは山口大学の脇田先生に学術的なことを紹介していただいているところです。

これはジオガイドとの意見交換会の様子です。森の駅で行っております。

これはガイドが作った韓国語のパンフレットを紹介している様子です。

それぞれガイドがいろいろ工夫しながら紹介してガイド活動を行っています。

こちらは、秋吉台科学博物館で秋吉台の国際的価値などの見せ方、どうやって見せていくのがより良いのか説明しているところになります。

この映像は本来30分ある番組を５分という短い時間に短縮させていただきました。主に今回の審査では、桃ノ木露天掘り跡、秋吉台、秋芳洞、カルスター、そして秋吉台科学博物館、歴史民俗資料館等を調査しております。

秋吉台や桃ノ木露天掘り跡等の国際的価値をどのように見せるのがいいかいろいろ意見交換をしたところです。

この現地調査の結果が12月14日に発表されまして、再認定という結果をいただきました。

当日、発表された、速報では、「この４年間で、施設の改善やジオストーリーの共有、ガイド育成や、地域団体との協働、関係機関との連携強化など、様々な取組が進んだ。

教育、観光受入れ、秋吉台、秋芳洞の保全にも進展が見られた。

展示改善や多様なイベントの開催、ジオパークを取り入れた学習などの成果は大きく、ジオパークの魅力がより幅広くアピールされている。

地質物品販売などの課題もいまだ残されてはいるが、ジオパークの理念を共有した、事務局スタッフ、ガイド、関係者とともに、魅力的な活動を展開し、課題解決に向けて取り組んでいる。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。」という審査結果をいただいております。

今年度は、日本ジオパークの再認定審査地域というのは５地域ありまして、三陸ジオパーク、栗駒山麓ジオパーク、Ｍｉｎｅ秋吉台ジオパーク、この３地域は、再認定という結果をいただきましたが、恐竜渓谷福井勝山ジオパーク、佐渡ジオパークは、条件付再認定、いわゆるイエローカードという結果となっておりまして、２年後の再認定審査を受けなければなりません。

今後、審査結果報告書が日本ジオパーク委員会から発表されますので、その指摘事項を一つ一つ丁寧に対応していくとともに、今年の５月のジオパーク推進協議会総会で議決いただいております来年度のユネスコ世界ジオパークの国内推薦審査に向けて、申請書の作成等に取り組んでいきたいと考えております。

世界ジオパーク推進課からは以上になります。

教育長　南　順子

大変御心配でございました。ありがとうございました。

今の報告につきまして何か御質問等、御感想等がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。はい。

もう２時間近くなりますけども、このまま少し進めてよろしゅうございますでしょうか。

7 教育委員からの提案及び意見

教育長　南　順子

それでは次、７番目教育委員の皆様からの御提案や御意見ということで、令和５年度市町村教育委員会研究協議会における各分科会の状況報告について、お願い出来たらと思います。

初めに部活動の在り方について山本委員さんからお願いいたします。

委員　山本　亜由美

先ほども久保コーディネーターさんが、部活動のことを言われたので美祢市の取組はもうすごく進んでいるなというふうに思ったんですが、他市はやっぱり、グループ協議の中で、現状と課題として部活動が他校との合同チームで成り立っていることと、部活動に入る生徒が減っているっていう点が挙げられました。

そして地域スポーツとした場合、受皿がない、総合地域スポーツクラブがあっても、専門的知識を有しているものがほとんどいない。

仕事に皆さんついていることから、指導することが難しいっていうことと、地域へとなったら、美祢市みたいにスクールバスがあるところばかりではないので、平日休日ともに、移動手段の確保が難しいということと、学校との連携やスタッフの確保や、指導者への報酬、指導スタッフの研修、資格制度、マニュアル作成、組織体制、連絡手段システムの構築、地域クラブ活動への参加に関わる経済的負担等挙げられました。

文科省が一つ発表した、長崎県長与町の例があるんですが、この長崎県長与町は、中学校が３校あって、令和５年の４月から地域スポーツ活動がスタートしました。

地域スポーツ活動は、学校と連携した地域の受皿として、唯一ある地域型、総合型地域スポーツクラブが担っています。

この地域スポーツクラブには、もう全部そろっていて、12種目のスポーツができるところがあって、指導者もそこにはきちんといます。

平日は学校で行っているんですけれども、休日はスポーツクラブで行っています。

月会費は3,000円を集めているそうです。長与町の地元企業が地域スポーツ活動にスポンサーとして協力しています。

話し合っている中で、例えば、市役所の中に地域クラブ課、そのような部署が出来たら、その中でバスの手配や活動場所の確保、指導者の派遣、スポーツ保険、保護者や学校との連携、その他のことが一つの場所で解決できるのではないかっていう意見が出ました。

でも美祢市はほとんど進んでるのでちょっと当てはまらない部分も多いかと思うんですけど、やっぱり他市はまだ困っているところも多いようです。

以上です。

教育長　南　順子

はい、ありがとうございました。

今の報告につきまして、何か御質問とかよろしいですかね。

ありがとうございました。

続きまして、金子委員さんのほうからいじめ対策不登校支援についてお願い

いたします。

教育長職務代理者　金子　明美

はい、11月10日、行かせていただきましてありがとうございました。

午後からの開催ということで前半は文科のほうから、行政説明ということがございました。

午後、後半部分が研究分科会ということで、私は第３部会のいじめ対策不登校支援という部会に参加をいたしました。

ここではグループ協議というふうに書いておりますが６、７名のグループで協議するという形で進められました。

私のグループは、沖縄の嘉手納町、あるいは、徳島の方、青森、香川、佐賀、そして私ということで６名のグループで話をしました。

特にいじめ、不登校という二つの柱ではなくて一本化しようということで、不登校について話をしました。

限られた時間ですので本当なかなか深めるというところまでは行っておりませんがその中で出た話をまとめさせていただきました。

一番目、現状についてということで、ほとんどの参加の県のところはやっぱコロナ明けの不適応ということで、増加の傾向が見られるということでした。特に、小学校で、沖縄の場合は約２倍であるということを言われました。

文科の説明の中でも、小中学校で今約30万人と、ということで今過去最多の状況であるということで、大変深刻な状況であるということでございます。

この不登校の支援ということなんですが、大きく分けて、未然防止、それから不登校児童生徒への支援ということで、まとめさせてもらいました。

一番目、未然防止ということで、これはどこのところも名称は違いますが、不登校対策委員会とか健やかこどもづくり連絡委員会とか、いろいろこう名称は違いますが、そういう委員会を立ち上げて協議等し、こどもたちの不登校に向けての対策を練っているということでございます。

また学校の中でも、不登校対策委員会とか学校モニター制度とか教育相談員の配置とか、そういういろんな名前は違いますが、対策を練っているということでございました。

嘉手納町は誰１人取り残されない学びの保障に向けた、不登校対策から、嘉手納版こころプランというのをつくって、出るというふうな話がありました。

不登校児童の制定の支援のところですけども、まず学校における対応ということで、学校へ登校することが出来ているが、教室に入ることが出来ないお子さん、そのために児童生徒のために設置した教室ということで、別室における支援ということで、生徒指導支援員というふうなことを今書いておりますが、これも名称がいろいろでございましたが、それに対応する支援員さんを配置し、

登校したときの居場所づくり、それから学習の保障、等々、それから休み時間等の見守り等々をしているということでした。

またここの場所がですねセンター通所、次に出てくるかと思いますが、センター通所のときに、学校に行くときは利用するということで学校復帰のステップとなるというふうなメリットもあるというふうな話もありました。

それからスクールカウンセラーの活用ということで、いろんなカウンセリング、それから助言、教職員からの相談、ケース会議等で、スクールカウンセラー、皆さんが活用しているというお話でございました。

それから教育委員会の方の対応ということで、大きく分けて今４つほど、書いておりますが、適応支援センターの設置ということでこれも名称はいろいろございました。

教育支援センター等の名前もございました。

ここは心理的また情緒的な理由によって、学校へ登校出来ない状態にある児童生徒が通所する。

そういう通所対象であるということです。

これは佐賀県の例だったのですけれども、１か所ではなくて、嬉野市というところには町が二つあって、それぞれのところに１か所ずつ計２か所、支援センターを開設してその選択が可能であるということで、保護者が送迎しなくても自力で近いほうとか、そういう登校ができるというふうなメリットがあるということ、それから、ほかの市町からの受入れもしているというふうな話もあり、それから、アウトリーチ型ということで、それぞれ、場所がなくてこどもたちのほうに寄っていくという形で児童館とか図書館を活用しながら、場所を移しながら、こどもたちのほうに対応していくっていうふうなこともあるということでした。

何時からでも、何時間いても通所出来たら出席扱いにしているというふうなお話も出ました。

それからＳＳＷの活用というところで、これもほとんどの市町のメンバーの中では、しっかり活用しているということでございました。

とても大きな役割を果たしているということで、環境への働きかけとかですねネットワークの構築、それから保護者とか教職員の支援相談、それから学校内における支援体制の構築ということを先生が抱え込まないようなそういう体制づくりに、大変大きな役割を果たしているということです。

それから、ＩＣＴの活用ということで、ここは佐賀県だったと思うんですけれども、教育相談の活用とかそれから、相談員の活用、心の相談、教育、心の教室相談員の活用とそれから不登校の対応のコーディネーターさんを導入しているというところもありました。

これコーディネーターさんが、いろんなところの調整役をするということで、

とても来られるっていうふうな熱心な活動でした。

それから３番目、関係機関との連携ということで、教育委員会だけではなくて、家庭児童相談員、こども支援コーディネーター、福祉課、社会福祉協議会、やはり、その生活から支援していくということで、職業支援とかですね、制服リサイクルとか朝御飯支援とか、そういうふうなこと、それからフリースクールから無料の塾とか、そういうふうなところとの連携もしているというお話でした。

それからＩＣＴの活用ということで、自宅でオンライン授業に参加出来た場合は出席扱いにしているっていうふうに、これは佐賀県の課題ですが、フリースクールということで、これもやはり無償ではないということで経済的な支援の点で、オンラインも可能なこともあるのですが、なかなか活用が難しいというふうな話もありました。

それから中学校卒業後の進路、これがなかなか方向づけが難しいというふうな話もありました。

私も、それから最後ですが、外部機関とのつながりということで、完全不登校の児童生徒、重い事例という場合は、外部機関とつながっていないという傾向がある。

例えば佐賀県の場合は半分がそういう状況であると、そうするとなかなか長期化して、打破することが難しい。

だから外部と、いかにつなげていくかという、そういう働きかけがなかなか難しいというふうな話が出てまいりました。

以上でございます。

教育長　南　順子

はい、ありがとうございました。

何か御質問等よろしゅうございますでしょうか。

委員　山本　亜由美

ちょっと野球部のこどもたちから聞いてきてほしいって言われたことがあって、大谷翔平選手のグローブが全国の小学校に届くっていうのがニュースで流れて、こどもたちがいつ届くのかって首を長くして待っている中で、他の小学校に届きましたと。

それがニュースに流れたのですけど、美祢市は、学校別に、グローブが欲しいですっていう申請をしないといけないのか、それとも市でまとめてやってくれるのか、どっちなんだろうと思って。

多分、うちのスポ少もいろんな学校から来ているので、どの学校でも多分グローブ待ってると思うので、もし、どこの学校も申請してないようだったらこ

の美祢市で申請をしていただけるとありがたいなと思います。

教育長　南　順子

はい、中島課長。

学校教育課長　中島　幹晃

はい、ありがとうございます。

市のほうで、もう県のほうにはですね、全小学校のもちろん必要ですという申請はしております。

はい、ですから、昨日、随分大々的に報道がされましたけれども、多分まだ山口県ではどこも配られてないのではないかと思います。

具体的に、いつ配られるのか持ち合わせておりませんので確認いたします。

教育長　南　順子

はい、よろしいでしょうか。

ほかのことにつきましては何か教育委員さんのほうから御提案とか、御質問がありましたらお願いいたします。

よろしゅうございますでしょうか。

はい、ありがとうございました。

それでは本当に教育委員の皆様方におかれましてはこの１年間ありがとうございました。お疲れさまでございました。

山田委員さんの１日も早い、復帰を祈念いたしますとともに、また令和６年が皆様にとって希望に満ちた輝かしい年になりますことをお祈り申し上げたいと思います。

それでは、皆様どうぞ良いお年をお迎えになっていただけたらと思います。

事務局のほうにお返しいたします。

次回の教育委員会会議の開催予定

事務局長　千々松　雅幸

それでは１月の定例会議でございますけれども、１月の教育委員会会議は１月26日というふうにしておりましたけども、御都合が悪いということでございますので、１月23日火曜日の13時30分からということでいかがでございましょうか。

よろしいですか。

＜全員了承＞

閉会

事務局長　千々松　雅幸

　ということで、それでは、よろしくお願いをいたします。２月以降については、記載のとおりでございます。

　それでは長時間にわたり大変お疲れでございました。

　以上をもちまして、12月の定例教育委員会会議を閉じさせていただきます。

　お疲れでございました。

　皆さんどうぞ、良いお年をお迎えくださいませ。

（午後3時40分終了）

　　令和　　年　　月　　日

教育長

委　員

委　員

会議録作成